きょうみをもったことをしょうかいしよう

# 「せっちゃくざいの今と昔」

3年2組

#### I 単元の目標と評価規準

目標:目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができる。

ア 知識・技能	イ 思考·判断·表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①考えとそれを支える理由や	① 「読むこと」において、目的を意	① すすんで文章を要約し、学習の
事例、全体と中心など情報と	識して、中心となる語や文を見	見通しをもって、まとめたことを
情報との関係について理解し	付けて要約している。	伝え合おうとしている。
ている。	② 「読むこと」において、文章を読	
	んで感じたことや考えたことを共	
	有し、一人一人の感じ方などに	
	違いがあることに気付いている。	

#### 2 教材について

おわり	中					はじめ				
	中	3		中②			中①			
0	(9)	9	8	7	6	<b>⑤</b>	4	3	2	①
結論	事 例 ②	事例①	剤った接着 作	欠点	事 例 ②	事 例 ①	剤料 自然の 者材	事 例 ②	事 例 ①	話題提示
にしている。わせた使い方をすることで、くらしをゆたかそれぞれのせっちゃくざいのとくちょうに合	る。米や小麦から作ったのりや、にかわが活躍す昔の絵など、美術品の修理には、昔からある	る時に使われる。やジャガイモから作るのりは、じょうざいを作り然にある物のよさを生かし、トウモロコシ	工場で作られたものだ。今、使っているせっちゃくざいは、ほとんどが	んとくっつかなかったりする点が不便である。これらはくさりやすかったり、さむいときち	かわかしてかためて作る。「にかわ」は、動物のほねや皮をにたしるを、	ねっていくとのりができあがる。たいた米をへらでつぶし、水を合わせてよく	ゃくざいを作ってきた。昔から自然にあるざいりょうを使って、せっち	ることができる。かわりにせっちゃくざいを使うことで軽くす飛行機や電車などを作るときは、ねじなどの	くざいがつかわれている。体そう服のゼッケンは、ねつでとけるせっちゃ	っちゃくざいという。物と物をくっつけるはたらきをするものをせ

本教材は、接着剤の用途や今と昔の違いなど様々な観点から接着剤について知ることができるものである。 児童が自分が興味をもったことを紹介するために大事な語や文を見付けて要約することに適した教材文である。

#### 3 単元計画(全7時間)

次	時	学習目標	学習活動
第一次	I	身の回りの接着剤に目を向け、単元 の学習の見通しをもつ。	○昔の接着剤の原料を見せる。 ○のりを使った経験や、接着剤が身の回りでどのように使われているかを想起させる。
	2	文章の構成を捉えて、5つのまとまり に分けることができる。	○教材文を「はじめ、中、終わり」の3つのまとまりに分け、 さらに「中」3つのまとまりに分け、書かれている内容を 確認する。
	3	大事な言葉を見付け、「中①」に書かれている内容を表に整理する。	○「中①」に書かれていることを表に整理する。 ○大事な言葉や文と事例との関係で「中①」をまとめる。
第 _	4(2組	【展開 I 】中心文やキーワードに着目 し要約のポイントを理解する。	○2段落の中心文やキーワードを見付け、言葉の並び替え や付け足し、書き換え、そして要約する。 ○要約するためのポイントを理解する。
	本 時)	【展開2】自分が入れたいキーワード を決め、要約文を書くことができる。	○2段落で理解した要約のポイントを踏まえ、中心文と自 分で選んだキーワードを使い、3段落を要約する。
二次	5	大事な言葉を見付け、「中②」に書かれている内容を表に整理する。	○「中②」に書かれていることを表に整理する。 ○大事な言葉や文と事例との関係で「中②」をまとめる
	6(-組本時)	【展開1】自分が興味をもったことの中心が伝わるように、要約することができる。 【展開2】要約文を読み合って、共通点や相違点を見付ける。	<ul><li>○「中②」の5段落、6段落から自分が興味をもった段落を選び、伝えたいことの中心が伝わるように、大事な言葉や文を使って要約をする。</li><li>○同じ段落を選んだ児童と小グループをつくり、要約する際に、工夫したことを伝え合い、良いところや一人一人の感じ方の違いを見付ける。</li></ul>
	7	中③の要約文を書く。 筆者の考えについて、自分の考えをも ち、友達と交流する。	○中③の9段落、10段落を要約する ○11段落について、自分の考えをまとめ、意見交換する。

### 4 全力参加のための手立て

# 学びマップの活用

単元の流れや学習のゴールを示すことで、児童 が見通しをもち安心して進めることができる。

→学習の見通し

## ペア活動

全員が意見を話す機会をつくる。自分の意見 をもてない児童にも聞いて学ぶ場を設定す る。

# ダウト読み・並び替え

着目させたい言葉や文を意図的に置き換えた 文章を提示し、正しい文章を考えさせる。

→内容理解

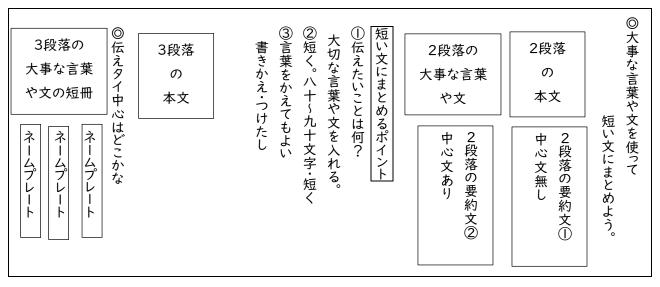
### 5 本時の展開(全7時間中の第4時)

本時の目標:要約の仕方のポイントを理解し、要約文を書くことができる。

時間	学習活動	・指導上の工夫 ・▲個別の支援	評価規準(評価方法)
導入 5分	I 「中①」を音読する。 仕掛け・ダウト読み	・キーワードとなる語句を意図 的に置き換える。	
	大事な言葉や文をまとめた表を確認する。 T:この文の間違いを見付けて、とな	【焦点化】	読みたい
	りの人に伝えよう。いくつ見付けら れるかな。		<i>3</i> 6-77-6
展開	2 本時のめあてを確認する。		
15分	大事な言葉や	文を使って要約文にまとめよう	
	3 表から抜き出した中①2段落の中 心文、大事な言葉を短冊にしたも のを2種類提示する。語句を付け 足して、短い文にまとめるにはどう したらよいか考える。	・2段落の大事な言葉や文をまとめた短冊を掲示する。 【視覚化】	考えたい
	T:2段落を短くまとめてみました。 どちらがよいでしょうか。 となりの人に考えを伝えよう。何 番目の文かな	・中心文、大事な語句の選択 【焦点化】 ・2つの要約文を提示する。 【Which 型】	
	T:先生は①がよいと思うのですが。 C:①には、中心文が入っていない よ。	①中心文が入っていない文 ② 中心文が入っている文	
	C: 中心文は必ず入れないといけない。 い。 T:なぜないといけないのかな。①の 方が具体的なことが書いてあって	・あえて間違えた要約文を肯定 する。なぜ①がいけないのかを たくさんやりとりし、中心文が 必要なことを児童から引き出	
	分かりやすいよね C: 段落をまとめた文が大切だよ。 T: では、2~4番目の文は何が書い てあるのだろう。 C:事例です。	す。 【ゆさぶり】	
	T:では1番は中心文だから必ず入れないといけないね。		

	4 要約する際のポイントをまとめる。	・中心文を入れる。	
	・伝えたいことを中心に大事な文や	·短く	
	言葉を入れる。	・言葉を変えてもよい	
		書き換え・付け足し	
展開 2			「読むこと」において、目
20分	5「中①」3段落の中で最も興味を	・3段落の中心文や大切な言葉	的を意識して、中心と
	もったところは何かを考える。	をまとめた短冊を掲示する。	なる語や文を見付けて
	T:3段落の中には3つの文がありま	【視覚化】	要約している。
	す。中心文はどれになるか、隣の		(記述·発言)
	人と話し合いましょう。		
	T:要約文の中に入れたい大切な言	【Which 型】	
	葉はどれかな。		
	   6 伝えたいことの中心を入れた3段	▲事前に支援の必要な児童を	
	落の要約文を書く。	リストアップし重点的に机間	
	冷の安心人と言く。	指導をする。なかなか書けな	****
	  -   ロー書いも悪め立たがリープが改ま		
	7 書いた要約文をグループで発表	い児童に対しては、大事な語	
	する。	句の書かれた短冊カードを	伝えたい
		渡す。	
まとめ	8 学びマップで今日の学習を振り返	・身に付けた力を確認する。	
5分	る。	【共有化】	

### 6 板書計画



### 7 授業観察の視点

- (1) 本時のねらいが達成されていたか。そのための指導法が考えられていたか。
- (2) 児童が全力参加する姿が見られていたか。
- (3)分かりやすく、考えを深めたり広げたりするために有効な発問であったか。